



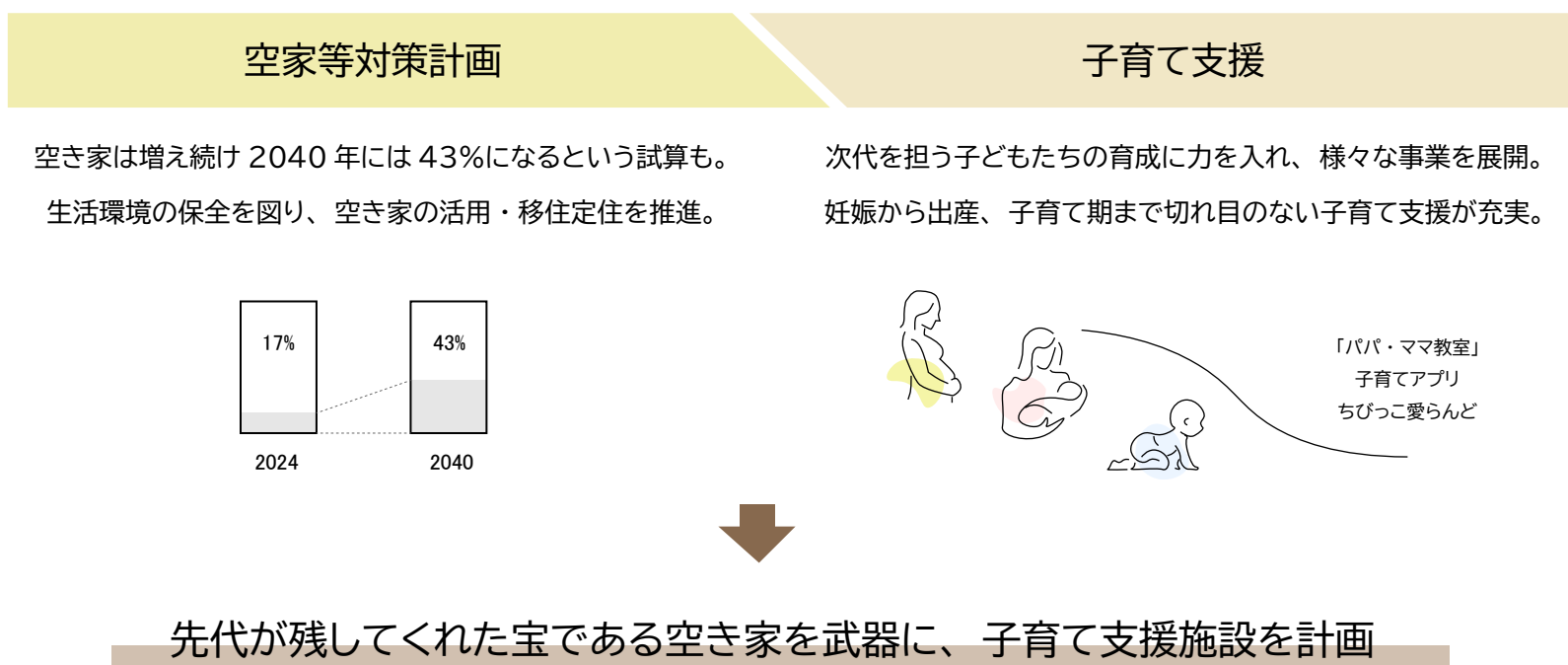
ひだまり

橘田スタジオ
22110013 有賀美穂

■ 計画の背景

— background —

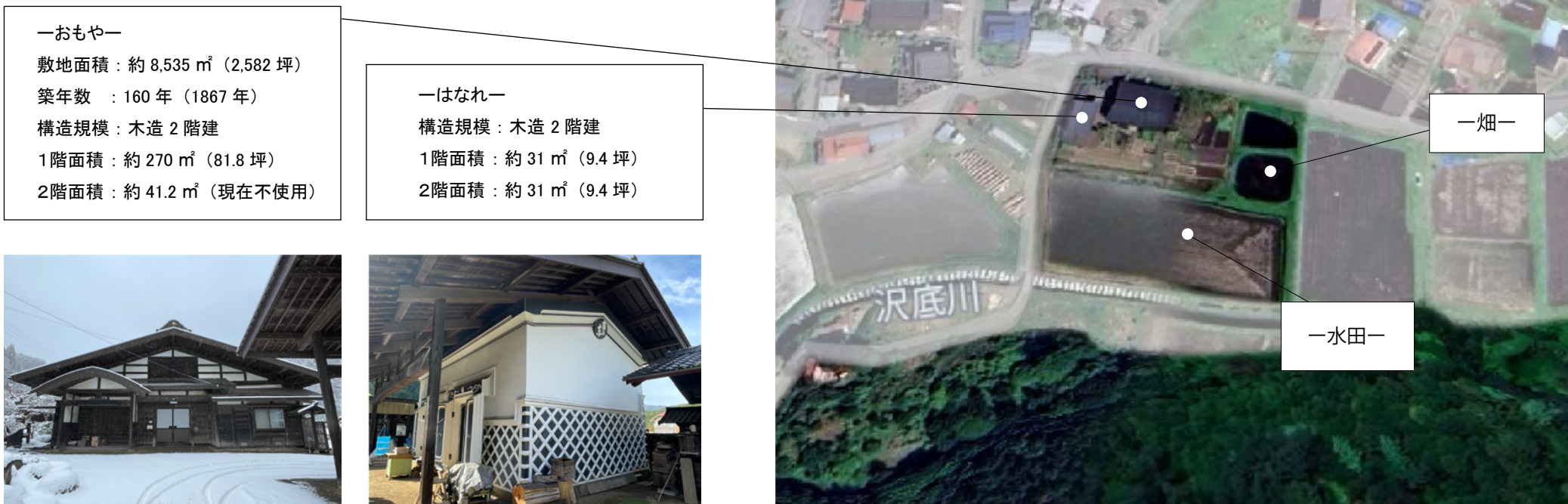
日本の中心に位置し、首都圏、中京圏から2〜3時間という便利な場所にある長野県辰野町。中央アルプスと南アルプスに囲まれる自然豊かな町である。また、先人の築き上げてきた歴史や風土が今も息づいており、国・県・町の有形文化財に指定される建造物が多数存在する。しかし、人口減少や少子高齢化による空き家の増加、景観の喪失、繋がり希少化が問題となっている。この計画では、それらの対策となる以下の2つの町の取り組みに注目し、想いや歴史を次世代へ継ぐ新たな古民家の使い方を提案する。



■ 自然に囲まれた、築160年の古民家

— location —

<対象建物>
対象となる建物として長野県辰野町に佇む、築160年の古民家を選定する。
現在は祖父母が2人で暮らす。
山、田、畑に囲まれ、この空間にはゆったりとした時間が流れる。



■ ママにフォーカスする

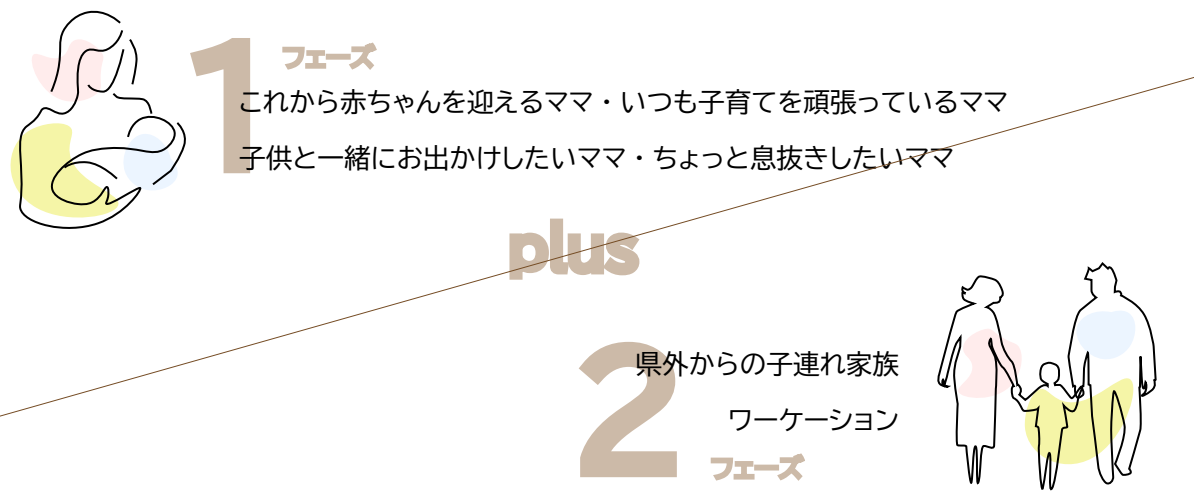
— concept —

“ママのわたし”と“個のわたし”

子供と一緒に過ごす時間に幸せを感じる自分、一人の女性として人生を愉しむ自分
ママのわたしと個のわたしのバランスをみつめる
そんな時間と空間を提供する施設

■ 2段階の提案

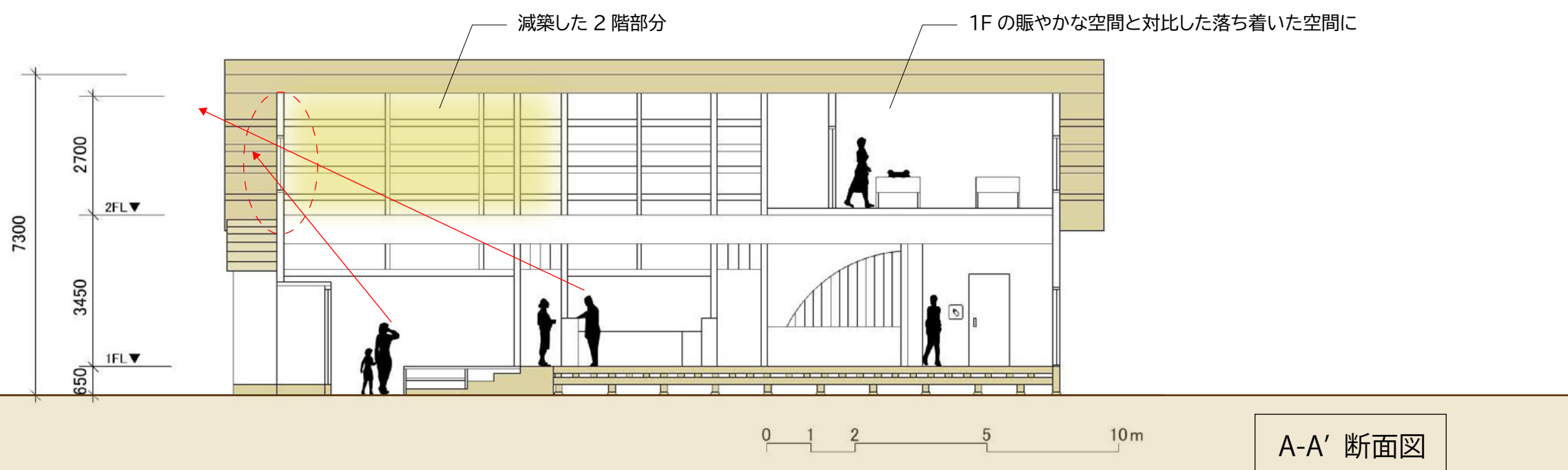
— target —



■ 梁を主役に空間を広げる

— Cross section view —

2階を一部減築したことで隠れていた2階の窓があらわれ、普段の生活では意識しない斜め上へ視線が抜けるようになる。1階の半分以上が吹き抜けで、梁あわしの開放的なつくり。長く使われた風合いのある梁を主役にすることで古民家らしい良さを生かした空間に。



■ 内と外をつなぐ

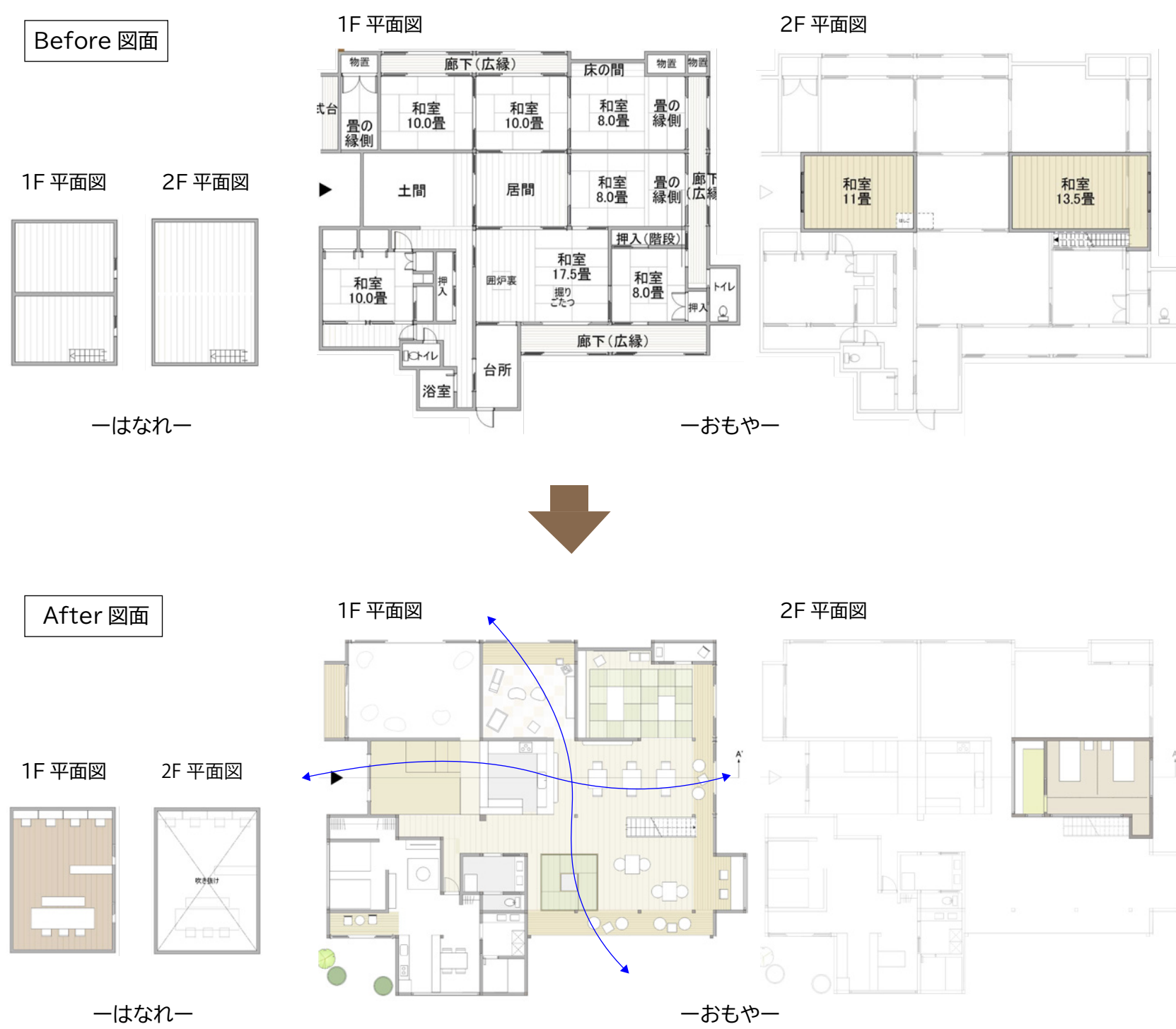
— zoning —

辰野町の景観形成条例に「あの頃の風景」とあるように、守られてきた美しい景観を継承する。敷地内の建物に加えて畑や水田を取り込むことで内と外をつなぐ。景色だけでなく、農業体験や収穫など自然に触れる機会として活用する。庭を楽しむ縁側と水田を楽しむ縁側を設け、異なる景色を魅せる。



■ 継いできた風景に抜け感を持たせる

— renovation —



おもやは、かつて交流の場であった縁側や土間などの旧家の良さを残しつつ、人が集まる空間に最適な間取りに変更。部屋数を減らして大空間にすることで部屋全体に明るさや開放感を持たせる。ドアを極限まで無くすことで小さな子供や子供を抱っこしているママでも移動がしやすいようにする。また、反対側の窓への水平方向の吹き抜けを通して、風や視線の通り道をつくり、抜け感を持たせる。

2階部分は東西にわかれた一方を減築し、もう一方のみを活用する。

はなれは2階を減築することで圧迫感を減らし、大空間に改築。

